



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No. 4

令和 6. 5. 2 7

四国中央市立
小富士小学校

耳を澄ます、目を凝らす

最近、小鳥のさえずりがよく聞こえてきます。児童の靴箱の上に巣を作っているのが、とても賑やかです。しかし、その下を毎日通っているにもかかわらず、そのさえずりに気が付くときと気が付かないときがあります。外で耳を澄ませば、靴箱だけでなく、運動場や中庭など至る所から小鳥のさえずりが聞こえてきます。部屋の中で耳を澄ませば、蛍光灯や冷蔵庫の音など、いろいろな音が鳴っています。よく聞いてみてください。今も、いろいろな音が聞こえるのではないのでしょうか。ところが、それらの音は、ずっと鳴っているのに聞いていません。聞こえているはずなのに聞いていない音っていっぱいありますね。また、見えているのに見ていない景色もいっぱいあります。先日、教頭先生に「百葉箱の天板が壊れているのですが、」と、言われたときに、小富士小学校に百葉箱なんてあったかなと思い、どこにあるのか確認をしに行きました。すると、毎日見ているはずの景色の中に、ぽつんとしっかり百葉箱がありました。しかも、その景色はちゃんと見慣れたものでした。「そうだ、ここにあった。」と思えるような気持ちと「こんなところにあったのか。」といった驚きが入り混じった妙な感覚を覚えました。まさに見えているのに見ていない景色でした。皆さんにも同じような経験はないのでしょうか。

6月1日は、ヘレン・ケラーさんの命日です。ヘレン・ケラーさんは、一歳半のときの高熱と、それに伴う髄膜炎によって視力と聴力を失いました。しかし、家庭教師のアニー・サリヴァンさんと出会い、ヘレンさんはサリヴァン先生と二人三脚で熱心に勉学に励み、24歳で成績優秀者としてラドクリフ大学（現ハーバード大学）を卒業しました。そして残りの生涯を通し、障がい者教育と福祉の発展に尽力し、多くの障がいを持つ人々の希望となりましたが、1968年6月1日に、皆に惜しまれながら生涯を閉じました。「見えない」「聞こえない」「話せない」の三重苦を乗り越え、偉業をなしたヘレンさんは「奇跡の人」と呼ばれていますが、ヘレンさんは「見えていないものも見ていて、聞こえていないものも聞いていた」のかもしれませんが、盲であり、聾であったけれど、幸せだったに違いないと思うのです。ヘレンさんは、数多くの名言を残しています。その一つに「目が見えないことは悲しいけれど、見える目で何も見ないことはもっと悲しい」という言葉があります。また、「世界で最もすばらしく、最も美しいものは、目で見ること、手で触れることもできない。それらは心で感じなければならない」は、ヘレンさんが残した生涯最後の言葉とされています。心が伴ってこそ、「見る」とか「聞く」とかいうことになるのだらうと考えます。「耳を澄ませて」聞くべきことを聞き、「目を凝らして」見るべきことを見る人になりたいと思います。

アニー・サリヴァン先生こそが「奇跡の人」だと言われる方もいます。サリヴァン先生自身もほとんど目が見えなかったのですが、ヘレンさんに熱心に関わり、厳しく指導し、ヘレンさんをより良く導きました。ヘレンさんは後に、サリヴァン先生と初めて出会った日を「私の魂の誕生日」と言っています。私たちは先生として、皆さんは親として、子どもたちにサリヴァン先生のように関わりたいものです。

校内球技大会

資源回収のご協力、ありがとうございました。校内球技大会へ参加、ご苦勞様でした。和気あいあいとした雰囲気の中で大会が行うことができ、とても楽しい半日でした。市P連の親善球技大会に出場するチーム分けを「グー、パー」で決めているのを見ながら、親睦の意義を大切に考えてくれており、素敵なPTAだと誇りに思いました。